

令和元年 救助統計

とがち広域消防事務組合

凡 例

- 1 本書は、令和元年中に発生した救助事故全般について、救急事故等報告要領に基づいて算出したものを統計資料としてまとめたものです。
- 2 数字の単位未満は四捨五入しているため、総数と内訳が一致しない場合があります。
- 3 表中で使用した符号は下記のとおりです。
「-」・・・該当数字又は集計値のないもの
「※」・・・注釈
「▲」・・・マイナス表示

目 次

1 救助活動の範囲・・・・・・・・・・・・・・・・	1 ページ
2 救助活動状況の概要・・・・・・・・・・・・・・・・	1～2 ページ
3 事故種別ごとの救助出動状況等・・・・・・・・・・・・・・・・	2～5 ページ
4 救助出動人員及び救助活動人員・・・・・・・・・・・・・・・・	6 ページ
5 救助出動車両・・・・・・・・・・・・・・・・	7 ページ
別表 十勝管内消防署別救助出動件数と救助活動件数・・・・・・・・	8 ページ

1 救助活動の範囲

救助活動は、次のいずれにも該当する火災、災害又は事故により発生したものです。

- (1) 要救助者の存在が予想され、しかも、その生命又は身体に現実の危険が及んでいるものであること。
- (2) 緊急に被害者を人力、機械力、器具等を用いて安全な場所に救出する必要があるものであること。
- (3) 消防機関が行ったものであること。ただし、直接人命救助を伴わない警戒活動・危険物排除活動等及び死体捜索は対象から除外する。

※ 「火災」の場合における「救助出動件数」は、出動件数そのものではなく、出動して実際に救助活動を実施した場合のみ救助出動件数として計上しています。この場合、救助出動件数と救助活動件数は同数です。また、火災時に救助隊員の誘導に従って自力で脱出した者の数は「救助人員」には含まれていません。

2 救助活動状況の概要

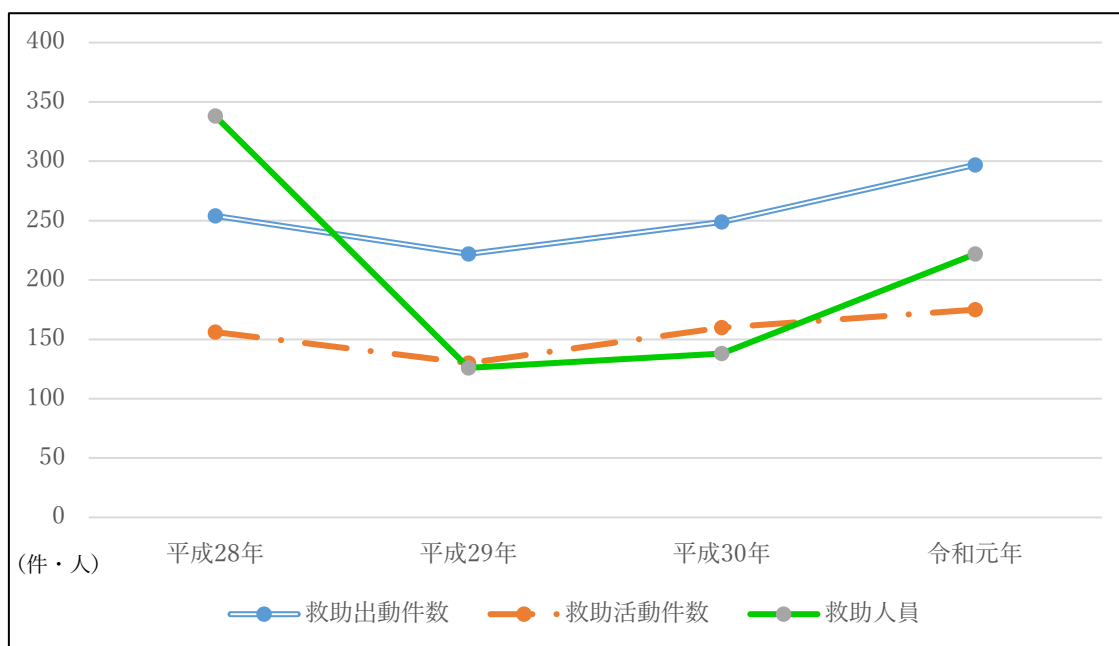
令和元年中における十勝の救助活動状況は、救助出動件数 297 件（対前年比 48 件増、19.3%増）、救助活動件数 175 件（対前年比 15 件増、9.4%増）、救助人員 222 人（対前年比 84 人増、60.9%増）であり、前年と比較して全ての項目で増加しています。

（表 1、図 1 参照）

表 1 救助出動・救助件数及び救助人員の推移

区分 年	救助出動件数		救助活動件数		救助人員	
	件数	対前年比 (%)	件数	対前年比 (%)	人員	対前年比 (%)
平成 28 年	254	—	156	—	338	—
平成 29 年	222	▲12.6	130	▲16.7	126	▲62.7
平成 30 年	249	12.2	160	23.1	138	9.5
令和元年	297	19.3	175	9.4	222	60.9

図1 救助出動・救助件数及び救助人員の推移



3 事故種別ごとの救助出動状況等

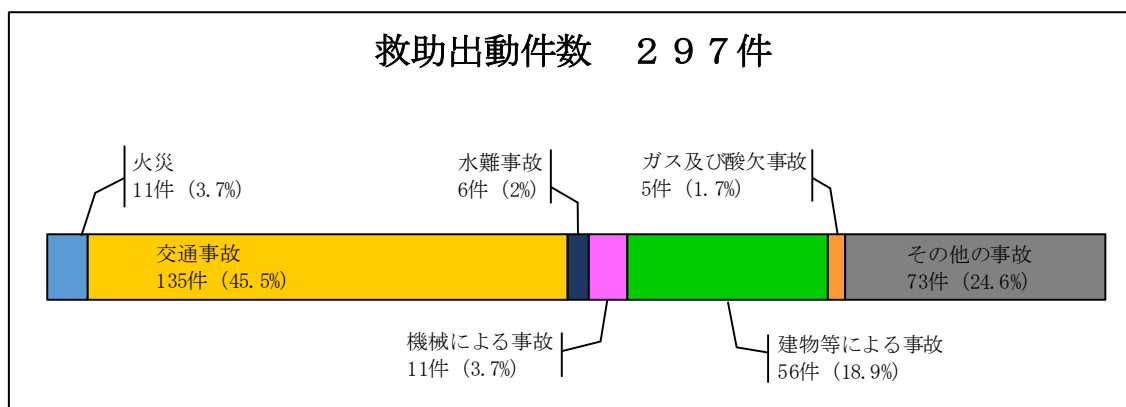
救助出動件数を事故種別ごとにみると、「交通事故」が135件、「建物等による事故」が56件、「火災」「機械による事故」が11件などとなっています。「火災」「交通事故」「水難事故」「ガス及び酸欠事故」は増加しています。また、「交通事故」が出動件数全体の45.5%を占めており、次いで「建物等による事故」18.9%となっています。「風水害等自然災害事故」による出動はありませんでした。

(表2、図2参照)

表2 事故種別ごとの救助出動件数対前年比

事故種別	令和元年中		平成30年中		対前年比	
	件数	構成比 (%)	件数	構成比 (%)	件数	増減率 (%)
火災	11	3.7	7	2.8	4	57.1
交通事故	135	45.5	102	41.0	33	32.4
水難事故	6	2.0	3	1.2	3	100.0
風水害等自然災害事故	0	0.0	0	0.0	0	-
機械による事故	11	3.7	11	4.4	0	0.0
建物等による事故	56	18.9	56	22.5	0	0.0
ガス及び酸欠事故	5	1.7	1	0.4	4	400.0
その他	73	24.6	69	27.7	4	5.8
合計	297	100.0	249	100.0	48	19.3

図2 救助出動件数



※

- 1 ()内は構成比であり、端数処理(四捨五入)のため割合の合計が100%にならない場合があります。
- 2 事故種別は、次により区分しています。
 - (1) 「火災」とは、火災現場において、直接火災に起因して生じた事故。
 - (2) 「交通事故」とは、すべての交通機関相互の衝突及び接触又は単一事故若しくは歩行者等が交通機関に接触したこと等による事故。
 - (3) 「水難事故」とは、水泳中の溺者又は水中転落等による事故。
 - (4) 「風水害等自然災害事故」とは、暴風、豪雨、豪雪、洪水、高潮、地震、津波、噴火、雪崩、地すべりその他の異常な自然現象に起因する災害事故。
 - (5) 「機械による事故」とは、エレベーター、プレス機械、ベルトコンベアーその他の建設機械、工作機械等による事故。
 - (6) 「建物等による事故」とは、建物、門、柵、へい等の建物に付帯する施設又はこれらに類する工作物の倒壊による事故、建物等内に閉じ込められる事故、建物等に挟まれる事故等。
 - (7) 「ガス及び酸欠事故」とは、一酸化炭素中毒その他のガス中毒事故、酸素欠乏による事故等。
 - (8) 「その他」とは、前記に掲げる事故等((1)~(7))以外の事故等で、消防機関による救助を必要とした事故。

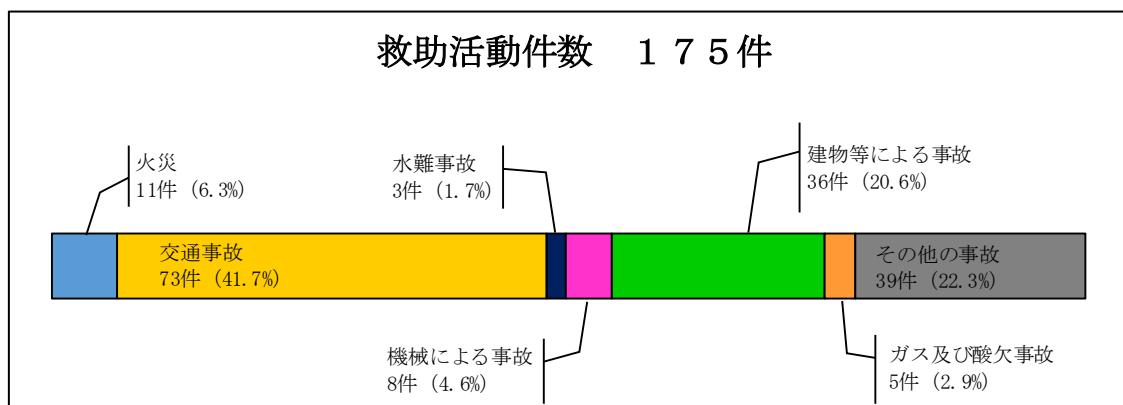
救助活動件数を事故種別ごとにみると、「交通事故」が73件、「建物等による事故」が36件、「火災」が11件などとなっています。「機械による事故」「建物等による事故」が減少する一方で、「火災」「交通事故」「ガス及び酸欠事故」は増加しています。また、「交通事故」が全体の41.7%を占め、救助出動件数同様最多の事故種別となっています。

(表3、図3参照)

表3 事故種別ごとの救助活動件数対前年比

事故種別	令和元年中		平成30年中		対前年比	
	件数	構成比 (%)	件数	構成比 (%)	件数	増減率 (%)
火災	11	6.3	7	4.4	4	57.1
交通事故	73	41.7	51	31.9	22	43.1
水難事故	3	1.7	3	1.9	0	0.0
風水害等自然災害事故	0	0.0	0	0.0	0	-
機械による事故	8	4.6	9	5.6	▲1	▲11.1
建物等による事故	36	20.6	43	26.9	▲7	▲16.3
ガス及び酸欠事故	5	2.9	1	0.6	4	400.0
その他	39	22.3	46	28.8	▲7	▲15.2
合計	175	100.0	160	100.0	15	9.4

図3 救助活動件数



※ 表2の注意書き参照

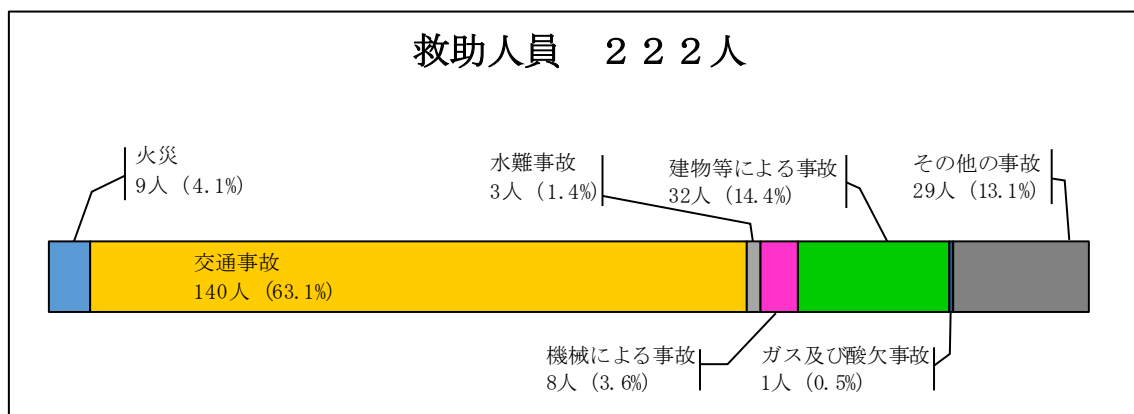
救助人員を事故種別ごとにみると、「交通事故」が140人、「建物等による事故」が32人、「火災」が9人などとなっています。「機械による事故」「建物等による事故」が減少する一方で、「火災」「交通事故」「水難事故」「ガス及び酸欠事故」は増加しています。

(表4、図4参照)

表4 事故種別ごとの救助人員対前年比

事故種別	令和元年中		平成30年中		対前年比	
	救助人員	構成比 (%)	救助人員	構成比 (%)	救助人員	増減率 (%)
火災	9	4.1	2	1.4	7	350.0
交通事故	140	63.1	60	43.5	80	133.3
水難事故	3	1.4	0	0.0	3	-
風水害等自然災害事故	0	0.0	0	0.0	0	-
機械による事故	8	3.6	9	6.5	▲1	▲11.1
建物等による事故	32	14.4	33	23.9	▲1	▲3.0
ガス及び酸欠事故	1	0.5	0	0.0	1	-
その他	29	13.1	34	24.6	▲5	▲14.7
合計	222	100.0	138	100.0	84	60.9

図4 救助人員（救助活動により救助した人員）



※ 表2の注意書き参照

4 救助出動人員及び救助活動人員

救助出動人員の合計は 3,927 人であり、事故種別ごとにみると、「交通事故」が 1,605 人 (40.9%)、「建物等による事故」が 721 人 (18.4%) と半数以上を占めています。

救助活動人員の合計は 1,302 人であり、事故種別ごとにみると「交通事故」が 584 人 (44.9%)、「建物等による事故」が 186 人 (14.3%) と救助出動人員同様半数以上を占めています。

(表 5 参照)

表 5 救助出動人員及び救助活動人員

(人)

事故種別 区分		火災	交通事故	水難事故	風水害等 自然災害 事故	機械によ る事故	建物等によ る事故	ガス及び 酸欠事故	破裂事故	その他	合計
		救助出動人員	令和元年	449 (11.4)	1,605 (40.9)	114 (2.9)	0 (0.0)	116 (3.0)	721 (18.4)	97 (2.5)	0 (0.0)
平成30年	366 (11.7)		1,174 (37.6)	60 (1.9)	0 (0.0)	108 (3.5)	685 (21.9)	33 (1.1)	0 (0.0)	695 (22.3)	3,121 (100.0)
増減	83		431	54	0	8	36	64	0	130	806
救助活動人員	令和元年	156 (12.0)	584 (44.9)	53 (4.1)	0 (0.0)	61 (4.7)	186 (14.3)	36 (2.8)	0 (0.0)	226 (17.4)	1,302 (100.0)
	平成30年	50 (5.0)	366 (36.7)	45 (4.5)	0 (0.0)	61 (6.1)	230 (23.1)	4 (0.4)	0 (0.0)	240 (24.1)	996 (100.0)
	増減	106	218	8	0	0	▲ 44	32	0	▲ 14	306

※ () 内は構成比であり、端数処理 (四捨五入) のため割合の合計は 100% にならない場合があります。

5 救助出動車両

救助出動した車両の延べ台数は 1,130 台であり、救急自動車 361 台、消防ポンプ自動車 229 台、救助工作車 186 台で、全体の約 7 割を占めています。

また、事故種別ごとにみると「交通事故」が 499 台、「建物等による事故」が 195 台となっています。

(表 6 参照)

表 6 事故種別ごと出動車両

(台)

事故種別 区分	火災	交通事故	水難事故	風水害等 自然災害 事故	機械によ る事故	建物等に よる事故	ガス及び 酸欠事故	破裂事故	その他	合計
救助工作車	5	74	6	0	6	49	5	0	41	186
消防ポンプ自動車	38	95	2	0	7	31	7	0	49	229
はしご車	2	0	0	0	0	1	0	0	0	3
化学車	11	32	2	0	2	18	2	0	26	93
指揮車・指令車	8	60	6	0	6	37	5	0	30	152
救急自動車	18	197	7	0	11	57	6	0	65	361
その他	11	22	8	0	1	2	1	0	13	58
消防団車両	18	19	6	0	1	0	0	0	4	48
合計	111	499	37	0	34	195	26	0	228	1,130

別表 十勝管内消防署別救助出動件数と救助活動件数

(件)

	救助出動件数				救助活動件数			
	令和元年	平成30年	増減	増減率	令和元年	平成30年	増減	増減率
帯広消防署	121	110	11	10.0%	72	79	▲7	▲8.9%
音更消防署	21	27	▲6	▲22.2%	12	20	▲8	▲40.0%
士幌消防署	7	6	1	16.7%	4	4	0	0.0%
上士幌消防署	13	4	9	225.0%	7	3	4	133.3%
鹿追消防署	4	6	▲2	▲33.3%	1	3	▲2	▲66.7%
新得消防署	11	5	6	120.0%	9	2	7	350.0%
清水消防署	16	8	8	100.0%	12	5	7	140.0%
芽室消防署	19	16	3	18.8%	11	8	3	37.5%
中札内消防署	6	1	5	500.0%	3	1	2	200.0%
更別消防署	5	5	0	0.0%	4	4	0	0.0%
大樹消防署	9	8	1	12.5%	2	4	▲2	▲50.0%
広尾消防署	12	6	6	100.0%	5	2	3	150.0%
幕別消防署	17	21	▲4	▲19.0%	11	12	▲1	▲8.3%
池田消防署	6	5	1	20.0%	5	1	4	400.0%
豊頃消防署	1	4	▲3	▲75.0%	0	3	▲3	-
本別消防署	6	3	3	100.0%	2	2	0	0.0%
足寄消防署	12	7	5	71.4%	6	3	3	100.0%
陸別消防署	7	1	6	600.0%	6	1	5	500.0%
浦幌消防署	4	6	▲2	▲33.3%	3	3	0	0.0%
十勝総数	297	249	48	19.3%	175	160	15	9.4%

作成担当

とちぎ広域消防局消防救助課

令和2年12月作成